

地域における乳幼児健康管理方式に関する研究 乳幼児健康管理のすすめ方

古川 武 温 (富山県厚生部)
高野 陽 (国立公衆衛生院)
村田 巧 (立山町医師会)
牧野 貞子 (立山町歯科医師会)
中田 慶子 (富山県上市保健所)
堀 実子 (立山町)

1 はじめに

富山県立山町は、昭和52年より乳幼児健康管理体系に1歳6か月児健康診査を導入し、実施している。

本研究は1歳6か月児健診事業の検討に併せて乳幼児健康管理方式の確立を目的としているが、本年は、地域の特性に応じた効果的な健康診査方法の検討および保健指導の評価に加えて、3歳児健康診査にどうつながるか一連の体系を確立するために、①1歳6か月児健診の事後指導として、経過観察健診と保育者の意識調査および幼児食調査 ②乳幼児健康管理のシステム化をはかるため2歳児調査を実施した。その結果を検討したので報告する。

2 研究方法

1歳6か月児管理體系(図1)をもとに今年度は1歳6か月児健診の事後指導の徹底および健康管理のシステム化をはかるため、次の健診と調査を実施した。

(1) 経過観察健診：1歳6か月児健診受診時に要追跡観察と要指導等に判別された要経過観察児に対する2～4か月後の経過観察健診を実施し、観察健診時の未受診児および要追跡観察児について家庭訪問によるその後の状況のチェック。

(2) 保育者の意識調査：1歳6か月児健診の保健指導について、健診当日と3か月後に意識調査。

(3) 幼児食調査

(4) 2歳児の育児上の問題に関する調査

対象は、1歳6か月児健診を受診した2歳児に行い、育児上の問題に関する調査および希望する解決方法について調査を行った。

3 結果と考察

(1) 1歳6か月児健診(表1)

昭和58年度に実施した1歳6か月児健診の受診者、275名(受診率92.6%)を指示区分別にみると、要治療25名(湿疹13, ヘルニア3, その他9), 要精検5名(斜視3, 色素沈着1, 両足内反1), 追跡観察21名(身体発育13, 言語3, 歩行3, その他2), 要指導66名(食事, 保育養護, 身体発育等)。歯科診察では、受診者274名中むし歯あり17名(罹患率6.2%)不正咬合7名(発生率2.6%)。問診質問票からみた問題点では、おやつ時間をきめていない、79.9%, 哺乳びんを使用している68.0%, 歯みがきのしつけを始めていない45.8%, 行動上の問題49.1%の結果を得た。

(2) 経過観察健診

健診や保健指導後、身体発育、精神発達、運動機能、保育養護面等に問題があったり、罹病していると指摘された幼児について、2～4か月後に経過観察健診を実施した。

経過観察健診対象者75名(身体発育44名, 保育養護15名, 食事7名, 疾病ある者5名, 精神発達3名, 運動機能1名)中受診者は、54名(72.0%)であった。(表1)

この結果、更に継続して観察を必要とする追跡観察児は11名であった。追跡の概要についてのべると、身体発育上問題があった2名は、育児相談、訪問による状況から身体発育が順調であった。疾病のあった3名については、医療機関で経過みている。

行動上性器いじりの児は、1歳11か月時においての訪問の状況では、その行動がなかった。

運動発達遅滞の1名は、1歳11か月の訪問時でも、歩行の遅滞、微細運動の未熟があり、経過観察健診で継続して観察をする予定である。

言語の遅れの3名中2名は、保育環境に問題があり、訪問による母への働きかけで言語数はふえたが、2歳すぎても2語文がないので、今後も2〜4か月後の継続訪問が必要である。1名は、精神発達遅滞をとまなり言語のおくれの疑いがあったので、精密検査をすすめている。

保育上に問題のあった1名は、2歳2か月でも改善がなかった。

1歳6か月児健診後、2〜4か月で、経過観察健診を実施する事は、問題をもつ家庭にとって、保健指導を徹底する上で効果的であった。

経過観察健診で更に要追跡観察児とされた事例については、家庭訪問で追跡チェックする事後措置が必要である。

(3) 保育者の意識調査

健診時に受けた保健指導の内容が、日常の保育のなかでいかに生かされているかを知るために、保健指導に対するうけとめ方を健診当日と3か月後に調査した。

健診当日の回答で、子どもの状態がよくわかり今後の保育に役立った、困っていた事について良い指導が受けられた等、受けた指導が良かったと答えた者85名について、3か月後の調査では、①子どもの状態がよくわかり、保育に役立っている31名(36.5%) ②困っていた事について良い指導が受けられ問題が解決されつつある8名(9.4%) ③指導内容は、理解できたが実行がむずかしい30名(35.3%)と受けた指導を生活の中で実行する事の困難性を示している。(表2)

その困難性の内容をしるため、3か月後の回答で、実行がむずかしいと答えている者35名について、当日受けた指導の内容別にみると、①食事おやつ ②歯 ③身体発育 ④しつけ等で、食事おやつの中で指導を受けた者が26名おり、最も多く、食事に関する指導が、実行段階まで行く為の指導技術が問題とされる。

(4) 幼児食調査

前回、幼児の食事内容、食事行動に関する調査を実施した結果、摂取食品群に片寄りがあり、肉類、魚介類、乳製品、緑黄野菜の摂取が少ないことを報告した。

今回は、正しい栄養摂取を指導するための資料を得る目的で、1歳6か月児にとって望ましいと思われる食品、望ましくないと思われる食品が、どのように与えられているかを食品別に調べた。

食品別摂取状況票を受付で、健診問診票と同時に配付し、記入されたものを参考に栄養指導もできるように工夫した。

その結果、図2にみられるとおりである。

主食は、米飯が中心であることは、いうまでもないが、食パンもかなりの頻度で与えられている。

牛乳は、全員毎日飲んでいるにも拘らず、乳製品の摂取状況は余り高頻度とはいえず、バター(マーガリンを含む)、チーズの摂取は少ない。

動物性蛋白質では、魚介類、獣鳥肉類がともに少なく、レバーは殆んど与えられておらず、ハムソーセージといった加工品として肉類をとっている。

植物性蛋白質は、豆腐を中心によく摂取されている。

緑黄野菜は季節の影響のためか人参、ほうれん草を除き、あまり多く摂られていない。

また、海藻類も少ない。

副食のなかで、ふりかけ、漬物は多く与えられている。

間食は比較的甘いものが少なく、ピーナツ、ガムなど危険なものも少ない。

幼児にとって望ましいと思われる食品のうち、動物性蛋白質の摂取は比較的少ない。

野菜類も種類が限定され、農家地帯が多い地域では、季節外の野菜の摂取は消費地よりもかえって少ないのは当然かもしれない。

ふりかけ、漬物などが多いのは、適切な副食を与えないで、これらの食品ですませようとする保育者の安易な態度がうかがわれる。

米と塩分の多いものといった農村特有の食生活がすでに幼児期の早い時期に始まっていることがわかる。

三世代家族が多いために、食生活が、幼児のためを考慮されていないと思われ、その弊害が、ここにみられる。

(5) 2歳児の育児上の問題に関する調査

従来の乳幼児健康管理體系に、1歳6か月児健

診を導入し実施した場合、8歳児健診までの1年6か月の間に起ると予想される保育者の育児上の問題や悩みを知るため2歳児を対象に調査し、行政がどう対応すべきか今後の幼児健康管理体系のあり方を検討した。

調査対象は、53年12月時点で、満2歳から2歳11か月までの幼児386名、調査方法は、質問票を母子推進員によって配付自記記入の上回収をした。

回収率は96.1%、調査記入者は、母88.7%、父8.9%、その他となっている。調査対象児の概要は、第1子89.4%、第2子以上60.6%、祖父母の同居あり69.5%、同居なし30.5%、昼の主たる保育者は、母47.2%、祖父母40.2%、保育所7.5%、その他、未記入5.1%である。

育児上の不安や悩みで多かった項目は、風邪ひきやすい、ほめ方、しかり方がむずかしい、歯みがきのしつけ、哺乳びんがとれない、間食が多い、食事の量が少ない、子どもとのふれ合いが少ない、近くに遊び場がない等である。

出生順位別でみると、第1子に不安や悩みを訴える者が多く、育児経験の不足によるものと思われる。祖父母の同居の有無別にみると、核家族には、風邪ひきやすい、言葉が遅れている。ほめ方しかり方がむずかしい等養護面に悩みが多い。

複合家族では、しつけ面や指しゃぶり、間食が多い等の悩みが多い。

なお、複合家族で家族の意見統一がむずかしいと答えている者は、20.5%ある。育児上の不安や悩みに対する相談者は、家族や同年令の児をもつ人に相談するものが半数以上を占めている。これらの解決策として、不安や悩みに対し何らかの形で相談や健診をふやしてほしい者および育児教室の開催を望んでいる者が60.4%もいる反面、特に何も望まないとする者が、28.6%みられた。

発達発育面に悩みをもつ者に健診の希望が多く性格行動上の悩み、しつけや食事で悩みをもつ者に育児教室や保健婦による相談を望む者が多い傾向にあった。

なお、発育、発達上、ひきつけ、発育障害、言語発達や知恵おくれおよび、性格行動上問題があると保育者が心配している事例が、70人(18

9%)いる。

今後、訪問や育児相談、健診で追跡観察する事が大切である。

4 ま と め

(1) 乳幼児の健康管理について1歳6か月児健診を導入し、これに引きついで、経過観察健診家庭訪問指導を系統的に設定したが、このフォローシステムは、健診当日だけでは保健指導の徹底が困難なことから、効果的である。

受けた指導に対する保育者の理解と行動は、1回の集団健康診査方式ではなかなか体得されず、反復フォローすることによって、保健指導の徹底を図る。

(2) 乳幼児健康管理のシステム化を目的に、8歳児健康診査にどうつながるか、一連の体系を検討するために、2歳児を対象としたアンケート調査を実施した。その調査について、次の結果を得た。

① 問題は身体上の悩みより、養護、しつけ、食事、育児環境面に多い。

② 第1子に対し不安、悩みを多くもっている保育者が多い。③ 祖父母の同居や昼間の保育者が祖父母の場合に、しつけ、間食、育児上家族の意見統一が困難であることを悩みとするものが多い。④ 約60%の者が、健診、相談又は育児教室を希望して。今後、第1子や祖父母などが育児にかかわっている保育者に重点をおいた育児教室、地域ぐるみの食生活指導の啓蒙普及活動が大切である。

具体的な今後の計画として次のように保育、養護、しつけ等の問題に対する対応策として、学級活動や実習を入れた集団指導をとり入れて、少なくとも2歳までには、各家庭で、問題を残さないようにしたい。

① おばあちゃん学級

対象は1歳10か月～2歳児を世話している祖母、回数は年4回。

内容は、育児についての話し合いや、祖母と子どものボール遊びや民謡をとり入れてたのしみながらのレクリエーション。

講師は、学級内容に対応できる為、保健婦、保母、レクリエーション指導者が考えられる。

② 幼児食実習

対象者は1歳2～8か月児をもつ家庭の保育者で、奇数月に年6回実施する。

内容は、幼児食、おやつ作り方の実習およびむし歯予防の衛生教育を入れる。地区ブロック別の健康食実習では、家族の食生活と、手づくりのおやつもとり入れて行ない、町ぐるみの食生活改善に役立てたい。

③ むし歯予防の学級

対象者は、3歳までには、歯の清潔について習慣化させたいので、2歳～2歳6か月児で年2回。

内容は、ブクブク運動や歯の手入れをする方法および、ブランク・スコアにより、歯面のよごれを保育者に自覚してもらい、う歯予防につとめる。

④ 他の健康教育との関連

当町では、毎月老人の健康教育が企画されており、家族の健康問題を考える事から、育児部門をとり入れたい。

また、健康まつりを町ぐるみで1回計画されている中で母子の部として幼児の理解を深めることも考えられる。

乳幼児の健康管理體系には、児の問題の早期把握と保育者の教育が、並行反復して行える体系が必要であり、今後更に乳幼児健康管理體系を充実していくことが望まれる。

図 1

1 歳 6 か月児管理体系図

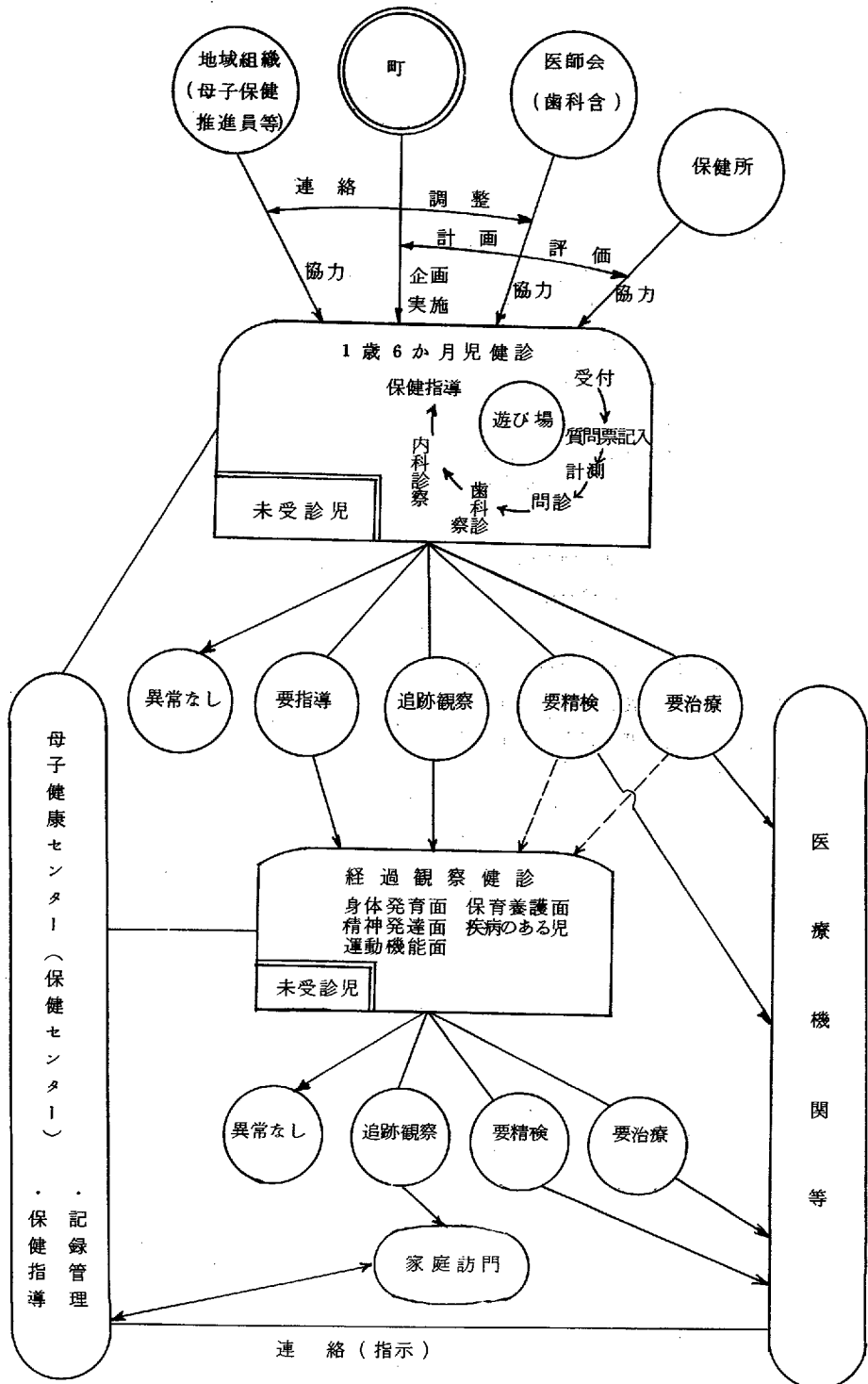


表1

1歳6か月児健康診査及び経過観察健診実施状況（53.4月～54.2月）

区分	1歳6か月児健康診査						経過観察健診												
	対象者	受診者						対象者						受診者				受診率	
		計	結果					計	内訳					計	結果				
			異常なし	要指導	追跡観察	要精検	要治療		身体発育面	精神発達面	運動機能面	保育養護面	食事面		疾病のある者	異常なし	追跡観察		要精検
数	275	158	66 (51)	21 (19)	5 (2)	25 (8)	75 (87)	44 (48)	8 (5)	1 (1)	15 (20)	7 (7)	5 (6)	54 (55)	48 (48)	9 (10)	2 (2)	0	720 %
率(%)	100.0	57.5	24.0	7.6	1.8	9.1	100.0 (100)	58.7 (552)	40 (57)	13 (12)	200 (200)	93 (80)	67 (69)	1000 (1000)	796 (782)	167 (182)	37 (36)	0	

注()内は経過観察健診対象者

注()内は延数

表2

保健指導に対する受けとめ方の変化

当日の受けとめ方 3か月後の受けとめ方	1. 子供の状態がわかり今後の保育に役立った	2. 困っていた事について良い指導が受けられ問題が解決されつつある	3. 指導内容は理解できたが実行できそりにない	4. 期待した程良い健診がうけられなかった	5. 他の施設で相談した方がよかった	6. 特に何とも思わなかった	7. その他	8. 無記入	計
計(率)	85(1000)	1	1	0	11	0	3	101(1000)	
1. 子供の状態がよくわかり保育に役立っている	81(365)	1			1			83(327)	
2. 困っていた事について良い指導が受けられ問題が解決されつつある	8(94)							8(79)	
3. 指導内容は理解できたが実行がむずかしい	80(358)		1		3		1	85(347)	
4. 期待したほど良い健診が受けられなかった	3(35)				2		2	7(69)	
5. 他の施設で相談した方がよかった	0							0	
6. 特に何とも思っていない	12(141)					4		16(158)	
7. その他	0							0	
8. 無記入	1(12)					1		2(20)	

図 2

食品の摂取状況 (48品目)

(毎日+週8回)

(月1~2回+ほとんど食べない)

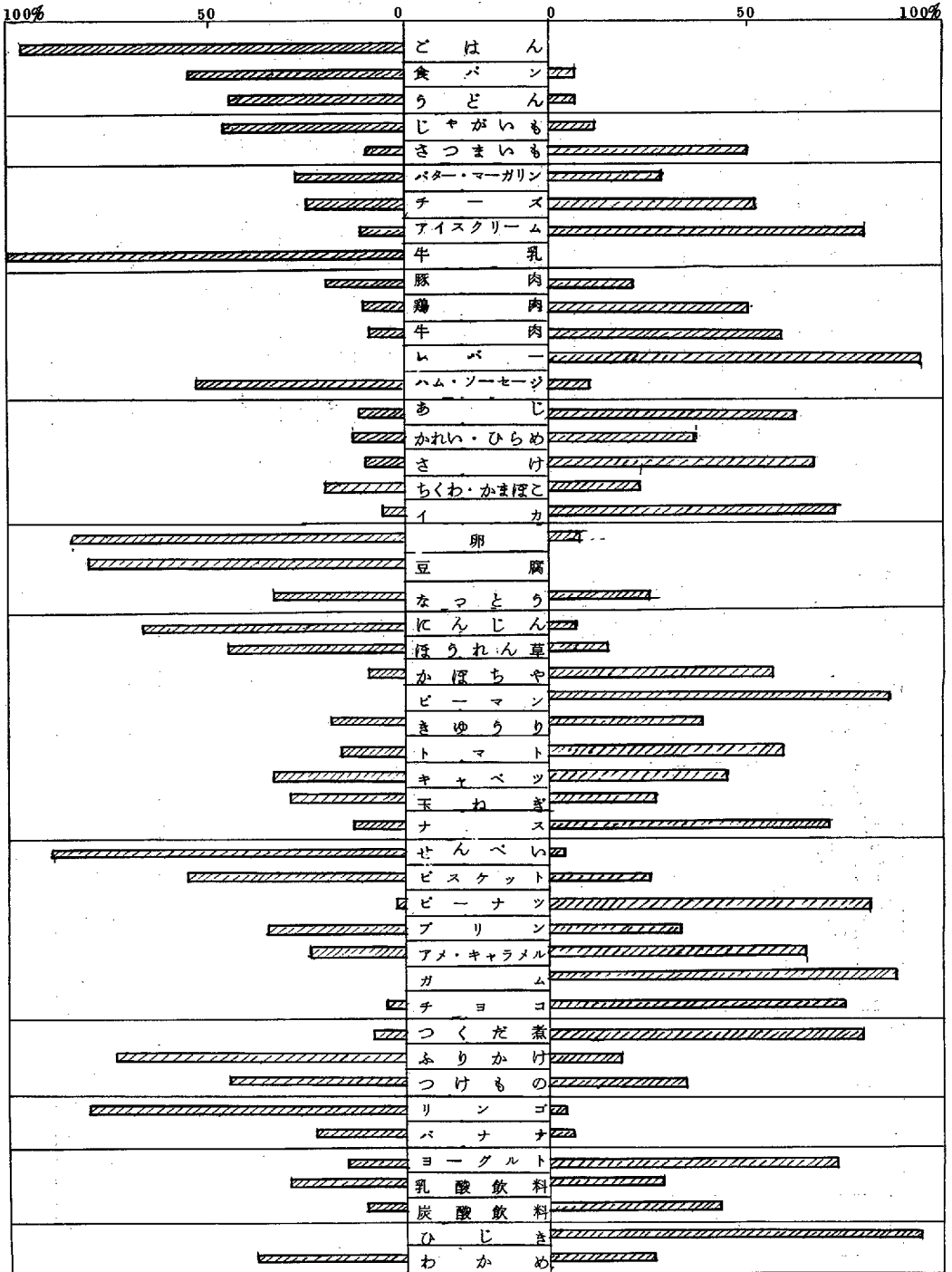


図 3

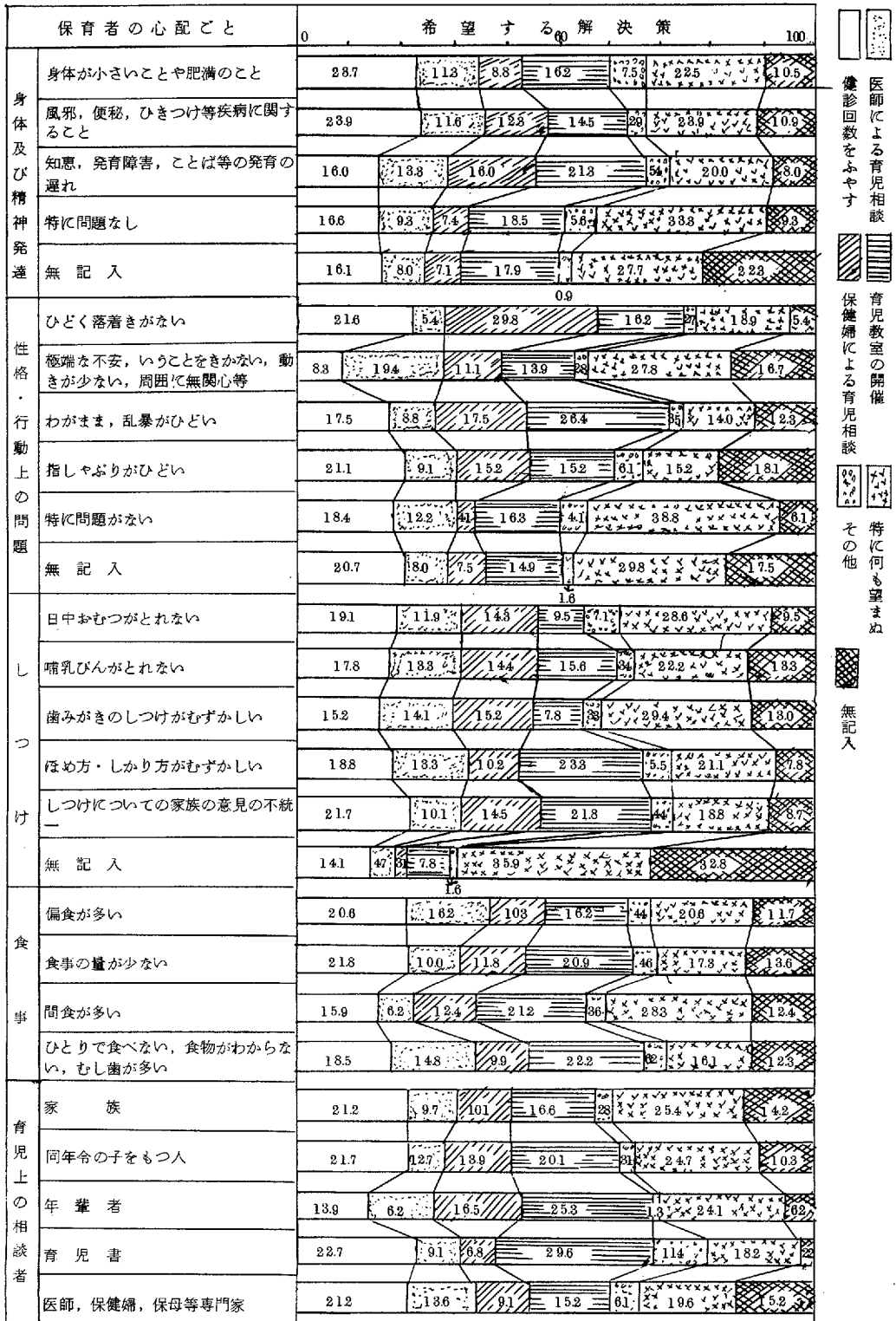
2 歳児の育児上の問題に関する調査

調査項目	総数 (371人)	出生順位 (第1子 146 第2子以上 225)	祖父母の同居 (あり 253, なし 118)	母 175 祖母 149 保育所 28	
身 体 及 び 精 神 発 達	他の子供とくらべて体が小さい ような気がする	10.4%	第1子 14.4 第2子以上 7.8	あり 16.8 なし 16.8	母 18.1 祖母 16.1 保育所 32.1
	他の子供とくらべて肥満のよう な気がする	3.8	4.1 3.6	4.7 1.8	4.6 3.4 0
	かぜをひきやすい	29.4	30.8 28.4	26.4 36.8	31.4 24.2 42.9
	便秘になりやすい	6.2	9.6 4.0	7.0 4.4	6.9 4.0 7.0
	よくひきつけを起す	0.8	0.7 0	0.4 0	0 0.7 0
	上手に走れない	3.2	4.8 2.2	4.8 0.9	2.9 4.0 0
	他の子供とくらべて発育が 遅れているような気がする	1.3	1.4 1.3	1.9 0	2.3 0.7 0
	他の子供とくらべて言葉が遅 れているような気がする	14.8	17.1 13.3	13.2 18.6	13.9 12.1 7.0
	他の子供とくらべて知恵が遅 れているような気がする	0.5	0 0.9	0.8 0	0.6 0.7 0
	性 格 ・ 行 動 上 の 問 題	他の子供とくらべてひどく落着 がないような気がする	3.9	11.6 8.4	8.6 9.7
極端に不安や恐れがつよい		3.7	3.4 4.0	3.9 3.5	4.6 2.0 3.6
ひどく言うことを聞かない		4.0	3.4 4.0	4.7 2.7	5.1 4.0 0
他の子供とくらべて動きが極端 に少ないような気がする		0.5	0 0.9	0.4 0.9	0.6 0 3.6
周囲の人にあまり関心を示さな いような気がする		0.8	0 1.3	0.8 0.9	1.7 0 0
他の子供とくらべてわがまま乱 暴がひどいような気がする		13.7	16.4 12.0	14.7 11.5	14.0 12.8 10.7
指しゃぶりがひどい		8.6	10.3 7.6	10.1 5.3	5.7 12.8 7.0
し つ け	日中のおむつがなかなかとれな い	9.4	11.6 8.4	11.2 5.3	10.3 10.1 3.6
	哺乳びんがなかなかとれない	21.6	22.6 20.9	20.7 9.7	19.4 26.2 10.7
	歯みがきのしつけがむずかしい	23.5	23.1 20.4	24.4 21.2	18.3 23.9 25.0
	テレビのみせ方	7.0	5.5 8.0	4.7 12.4	6.9 4.7 10.7
	ほめ方、しかり方がむずかしい	31.0	28.8 32.4	27.8 33.6	36.6 24.2 42.9
	しつけについて家族の意見統一 がむずかしい	16.7	13.7 13.7	20.5 8.0	17.1 17.5 17.9

調査項目		総数(371人)	出生順位 (第1子 146) (第2子以上 225)	祖母の同居 (あり 258) (なし 113)	居の保育者 (母 175) (祖母 140) (保育所 28)
食	偏食が多い	16.2%	第1子 19.2% 第2子以上 14.2%	あり 16.3% なし 15.9%	母 17.1% 祖母 14.1% 保育所 17.9%
	食事の量が少ない	27.5	31.5 24.9	25.6 31.9	28.6 25.5 35.7
	間食が多い	28.6	30.1 27.6	30.6 28.9	27.4 28.2 35.7
	食事を一人で食べようとしない	5.7	6.1 5.3	5.0 7.1	6.8 4.7 3.6
事	子供にどんなものを食べさせた らよいかわからない	1.6	2.1 1.8	1.9 0.9	1.7 2.0 0
	むし歯が多い	7.0	6.1 7.6	7.4 6.2	6.9 8.7 3.6
育児環境	近くに遊び場がない	24.0	19.9 26.7	25.8 20.4	24.6 26.9 21.4
	家のまわりに危険なところが多い	20.2	21.9 19.1	23.6 11.5	17.7 23.5 10.7
	子どもとのふれあいが少ない	31.8	39.0 36.0	32.2 31.0	33.7 33.6 17.9
保	家 族	54.2	45.2 69.8	59.7 41.6	48.6 43.7 42.6
	同じような年令の子どもをもつ人	47.4	47.3 47.6	48.8 55.8	57.1 40.6 35.7
育	育児経験の多い年長者	18.9	25.3 14.7	15.9 25.7	20.6 13.4 25.0
	育児書を読む	10.5	18.7 8.4	9.7 12.4	13.7 7.4 3.6
相	医 師	10.7	7.5 12.0	12.0 3.0	13.1 9.4 10.7
	保 健 婦	1.6	2.7 0.9	1.9 0.9	2.9 0.7 0
	保 母	3.8	2.7 4.4	3.1 5.3	1.1 2.0 17.9
解	健診の回数をふやしてほしい	20.8	19.2 21.8	18.6 25.7	26.9 14.1 21.4
	医師による育児相談をしてほしい	10.5	10.3 10.7	12.0 7.1	8.2 14.8 10.7
決	保健婦による育児相談をしてほしい	11.3	13.0 10.2	12.0 9.7	12.6 12.1 3.7
	育児教室等を開催してほしい	18.1	22.6 15.1	17.4 19.5	22.9 11.4 14.3
策	そ の 他	3.2	4.8 2.2	3.5 2.7	4.0 3.0 0
	特に何も望まない	28.6	25.8 30.7	28.7 23.3	24.6 34.2 25.0

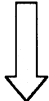
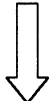
図 4

2歳児の育児上の問題について希望する解決方法



凡 例

医師による育児相談
 健診回数をややす
 育児教室の開催
 保健婦による育児相談
 その他
 特に何も望まぬ
 無記入

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1 はじめに

富山県立山町は、昭和 52 年よレ乳幼児健康管理体系に 1 歳 6 ヶ月児健康診査を導入し、実施している。

本研究は 1 歳 6 ヶ月児健診事業の検討に併せて乳幼児健康管理方式の確立を目的としているが、本年は、地域の特性に応じた効果的な健康診査方法の検討および保健指導の計価に加えて、3 歳児健康診査にどうつながるか一連の体系を確立するために、1 歳 6 ヶ月児健診の事後指導として、経過観察健診と保育者の意識調査および幼児食調査 乳幼児健康管理のシステム化をはかるため 2 歳児調査を実施した。その結果を検討したので報告する。